

安芸高田市 周遊観光振興構想

新・道の駅を起点とした安芸高田市 地域活性化事業

尾道松江道につながるアクセス道として注目を集める国道54号線は、広島市から山陰地方への主要アクセス道であり、当市にとっても市中心部を横切る主要幹線道路で、その沿線（吉田町可愛地区）に道の駅「(仮称)あきたかた」そして、田んぼアート公園「元就新城下」といった観光のランドマークを整備することにより、扇の要の如く、市内6町に点在する観光施設・観光地を線、そして面で結ぶ市内周遊型観光の拠点とします。

周遊観光効果への期待

このプロジェクトは、新たに開業する「新・道の駅」と近隣に「田んぼアート公園」を整備することにより、市内道路網の中心という地の利を活かして、市内6町の各地へ観光客を周遊させる新たな拠点の創造をねらいとしています。

「新・道の駅」は立寄り地（休憩地）にとどまることなく、

安芸高田市の観光客増加予測

	観光客数	観光消費額
2017年実績	約1,715千人	約25億円
2021年予測	約2,251千人	約33億円
増加予測	*約536千人↗	約8億円↗

観光消費単価：1,457円／1人として算出

「新・道の駅」「田んぼアート公園」開業時における観光客予測

2017年実績	ふれあい高田産直市の来客数	① 205千人
2021年予測	新・道の駅	観光客数 421千人
	田んぼアート公園	観光客数 80千人
	市内周遊効果	240千人
		② 741千人
増加予測	② - ① = *	536千人

田んぼアート公園では、西日本最大級規模の田んぼアートを実現するとともに、公園内に中世城下を模した展望台や屋台村を配し、「毛利元就」のイメージを醸し出すことで、歴史民俗博物館や郡山城跡への誘客はもとより、2020年元就公没後450年、更には郡山城跡整備と、当市主要な独自の観光資源「毛利元就」の磨きあげへとつないでいきます。

市内全域の観光客数を増加させ、当市における観光消費額の増額が期待できる地域活性化事業です。

この事業を通じた観光振興における効果は、次の様に予測されています。

プロジェクトによる経済波及効果 約12億7千万円

直接経済効果額	約875,992千円
周遊施設効果額	約349,680千円
広告宣伝効果額	約44,890千円
	1,270,562千円



スケジュール

新・道の駅「(仮称)あきたかた」

- 2019年5月 起工式
- 2020年5月 開業予定

田んぼアート公園

- 2019年5月 吉田町可愛地区 田んぼ作付面積（約2,300㎡）
- 2019年9月 稲刈り
- 2020年5月 仮設展望台設置 田んぼ作付面積（約7,000㎡）
- 2020年9月 稲刈り
- 2021年春 田んぼアート公園「元就新城下」本格開業予定 田んぼ作付面積（約14,000㎡）



安芸高田市 産業振興部 商工観光課

〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791

TEL0826-47-4024 FAX0826-42-1003

✉ shokan@city.akitakata.jp http://www.akitakata.jp



新たな挑戦

2020年 安芸高田市 地域活性化プロジェクト 始動

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催される記念の年に、安芸高田市に新たな2つの地域活性化プロジェクトが始動します。日本中が興奮と感動に包まれるこの年に、私達の安芸高田市にも、新たな観光のランドマークが誕生します。このプロジェクトにより、扇の要の如く、市内6町に点在する観光施設・観光地を結び、当市の周遊観光の活性化をはかります。

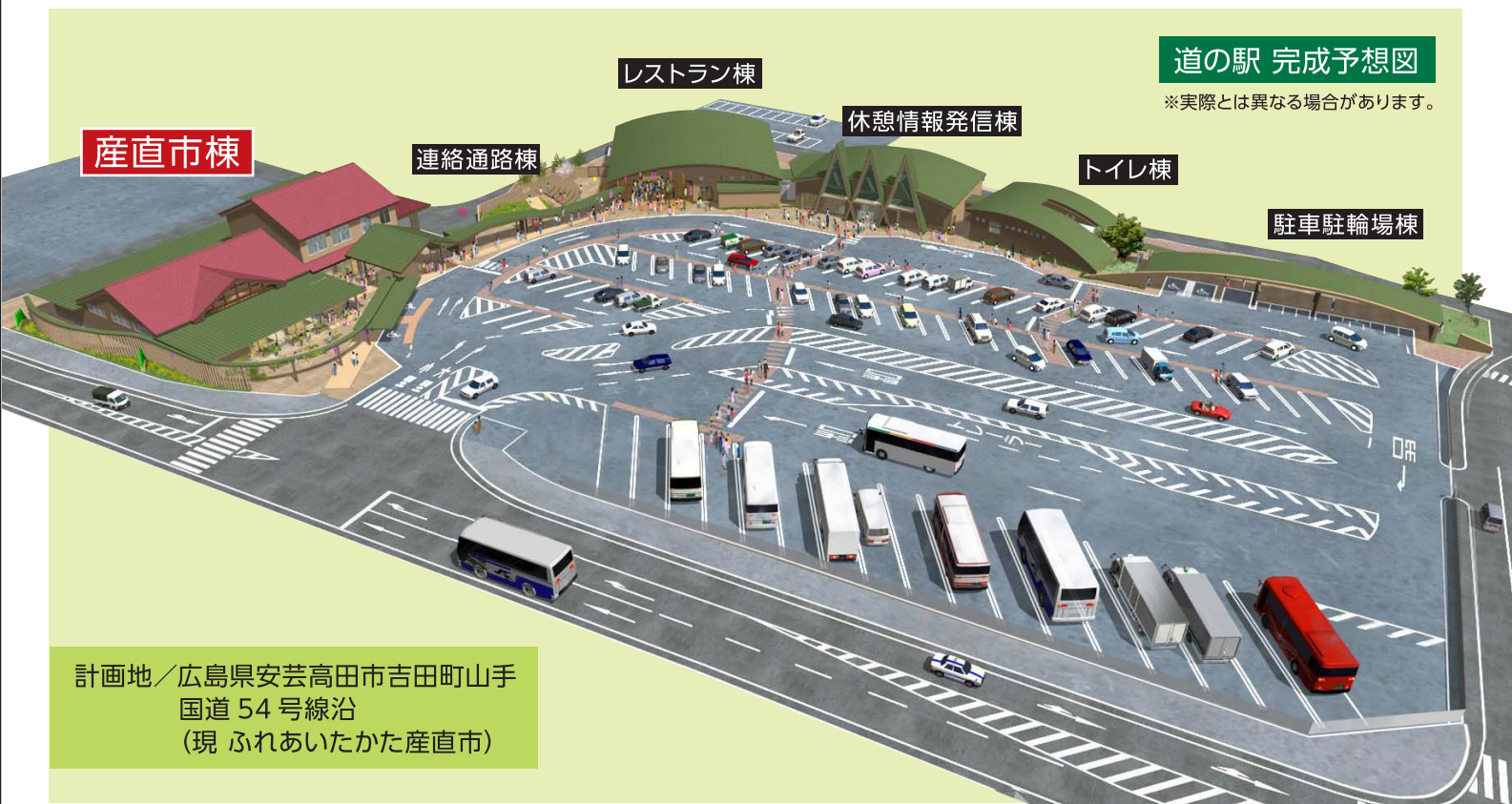


2020 年
5 月
開業予定

地域活性化のための総合交流拠点

新・道の駅「(仮称)あきたかた」

産直市を核とした観光ニーズ型 道の駅へのチャレンジ



計画地／広島県安芸高田市吉田町山手
国道 54 号線沿
(現 ふれあいたかた産直市)

「新・道の駅」が持つ5つの機能

- 1 物販機能**
地元の新鮮野菜
地域の物産品・特産品

- 2 料飲機能**
レストラン・カフェ・ベーカリーの新設



- 3 休憩機能**
・充実した休憩施設と
24 時間トイレ
・利用者に優しい
ノーバック駐車場

- 4 防災機能**
災害時における
地域の防災拠点

- 5 情報機能**
安芸高田市
観光活性化の
情報拠点



ふれあいたかた産直市の
大リニューアル

「道の駅」全体のシンボル

観光客を呼び込む集客施設

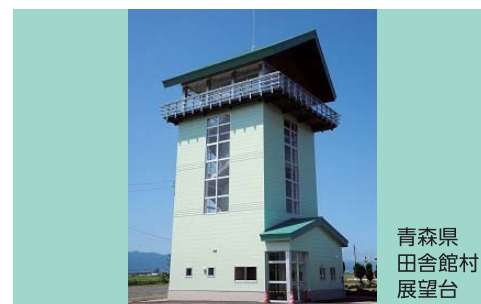
2021 年
春
本格開業予定

道の駅と連携した市内周遊観光の新拠点

田んぼアート公園「元就新城下」

西日本最大級の田んぼアートと郷土の誇り「元就公」に
焦点をあてた新たな観光のランドマーク

観覧用展望台 他市町村事例



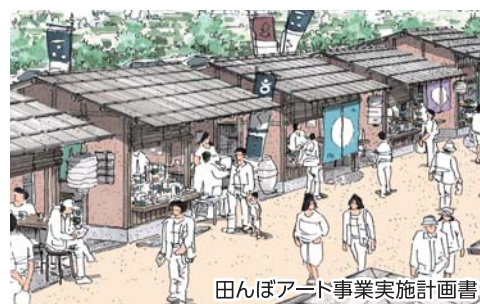
青森県
田舎館村
展望台

田んぼアート作図 他市町村事例



青森県田舎館村「ローマの休日」

元就新城下・中世屋台村イメージ



田んぼアート事業実施計画書

「田んぼアート公園」ゾーニング計画

- 1 田園芸術鑑賞ゾーン** 西日本最大級のスケールで描く田んぼアート（約 1.4ha）

田んぼアートとは、平成 5 年青森県の田舎館村で地域おこしのイベントとして始まりました。成長すると色づく特別な稲の苗を数種類組み合わせることで田んぼに直接植付けます。稲は成長するにつれ、それぞれ発色し、まるで田んぼに絵を描いたように浮きあがってくる田園芸術です。田舎館村では年間約 30 万人以上の観光客があります。本市では約 1.4ha の圃場に西日本最大のスケールで田んぼアートを描きます。展望台からの観覧は有料を想定しています。

ポイント

- ① 広大な田んぼに植え付けるので、全体が鑑賞できる展望台を設置。
- ② 稲の成長スピードに合わせて葉の色が変化し、見るたびに様子が変わるので何度でも楽しめる。
- ③ 春の田植えから秋の稲刈りまで、長期間楽しむことができる。
- ④ 毎年作図デザインを変えれば、毎年新鮮なイベントになる。
- ⑤ 話題のテーマを作図することによって、タイムリーな人気を得ることができる。

- 2 料飲娛樂ゾーン**
元就新城下・中世屋台村の新設

元就公没後 450 年を記念して、中世の城下町を模した屋台村を整備し、来場者（観光客）に向けて飲食のサービスを提供します。年間を通して楽しめる様々な店舗構成を目指し、民間事業者によるテナント方式を想定しています。

- 3 物販ゾーン**

公園内の一部では、安芸高田市の名産品や物産品を紹介し、販売します。

- 4 公園ゾーン**

年間を通じて利用できる公園スペースです。田んぼアートの鑑賞期間は約 4 ヶ月を想定していますが、その他のシーズンにおいても石アートや竹アートなど固定アートを展開し、憩いの場を提供します。

- 5 休憩ゾーン**

来場者（観光客）の休憩スペースを設けます。椅子、机を設置。併せて飲食するためのフードコートスペースとしても活用します。トイレ、パーキングスペースも設けます。



新・道の駅

吉田町山手地区

相互距離 約 500m

田んぼアート公園

吉田町可愛地区

2 つの施設での年間来場者数予測 約 50 万人